

静岡

2020年東京五輪の自転車ロードレースは、皇居外苑を発着点に都内を巡る案が2015年12月の国際オリンピック委員会 (IOC) 理事会で承認されたが、国際自転車連合 (UCI) はテレビ放送も意識して、テレビ映りや景観のよい富士山を背景に走るコースへの変更を求めている。

これを受けて、大会組織委員会では都内の渋滞緩和や警備の課題解消につながり、実力差が反映されやすい起伏のあるコースへの変更が可能かどうか検討していたが、武蔵野の森総合スポーツ施設(東京都調布市)付近をスタートし、神奈川県から山梨県の山中湖周辺を経由して、富士スピードウェイ(静岡県小山町)にゴールする起伏の激しいコース案をUCIに提案。UCIはこの変更案を視察し基本的に了承すると、大会組織委員会は関係自治体やUCIとの最終調整に入った。大会組織委員会は年度内にUCIとの最終合意を目指している。

ゴールに予定されている富士スピードウェイは自動

車レースの最高峰F1が開かれるなど歴史のある舞台として世界的に知られている。また富士スピードウェイのある小山町は平野と山地が交わる富士山の裾野に位置しているため、サイクリングに最適なコースが多く、田園や小川のある風景を楽しめるコースがある一方、平均勾配10%、最大勾配22%と本場ヨーロッパの超級山岳コースに匹敵する「ふじあざみライン」がある。同コースではUCIが認定した「ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ」や「富士山国際ヒルクライム」が開催され、毎年県内外から多くのサイクリストが訪れている。

自転車競技の花形とも言える自転車ロードレースが富士スピードウェイをゴールとした変更案に正式に決まれば、「サイクルスポーツの聖地 “ふじのくに”」を目指す静岡県にとっては、その魅力を国内外にアピールする絶好の機会となる。

すでに東京五輪・パラリンピックの自転車競技のトラックレースとマウンテンバイクの競技会場として、日本サイクルスポーツセンターにある「伊豆ベロドローム」と「伊豆マウンテンバイクコース」が正式に決定しており、この世界最大規模の大会開催地となることで、世界各国の選手団や観客・自転車ファンが多く訪れることが期待される。

県では2016年5月に「静岡県サイクルスポーツ協議会」を設立し、東京五輪に向けて県民の自転車への関心を高め、五輪後も国内外から多くのサイクリストが訪れる「サイクルスポーツの聖地」を目指した取り組みを加速させている。

ハード面では、聖地の象徴的な存在となることが期待される「ベロドローム」を有する伊豆・東部地域で、自転車利用者の休息場所「バイクピット」の設置が始まった。本年度中に50カ所を整備し、訪れるサイクリストをあたたく迎え入れる体制を整える予定だ。ソフト面では、国際交流として2015年イタリア国フリウリ・ヴェネチア・ジュリア州とスポーツ交流協定を締結し、両県州で行われる国際自転車競技大会へ隔年相互に選手を送りあうことで富士山とゾンコラン山を象徴とする自転車交流事業を推進している。第2回目の昨年はイタリア人と日本人約80人が参加し、「FUJI-ZONCOLAN ヒルクライム in 小山町2016」が開催された。今年はイタリアの大会「カルニア クラシック インターナショナル FUJI-ZONCOLAN」に日本人サイクリストが参加した。

東京五輪自転車ロードレース 富士山コースで 最終調整へ



東京五輪自転車ロードレースのゴールに予定されている富士スピードウェイ
写真提供: 小山町